

# 2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

神辺東中学校区	校番 76	福山市立御野小学校
最終更新日	2020年(令和2年)4月10日	

## I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	問題解決能力・コミュニケーション力・意思決定力
<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫した義務教育9年間の取組が着実に進められ、重点目標への具体的取組の成果が子どもたちの意識の向上等に表れている。</li> <li>働き方改革を推進し、教職員のやりがいや充実感を高め、子どもたちの主体的な学びをさらに推進していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標を持ち、学校生活全般に渡り、主体的にがんばることができ、全体的な規範意識は高い。</li> <li>授業では協働的な学習に積極的に取組んでいるが、意見の練り合いや合意形成、表現のスキル等が十分でない。また、基礎学力の定着にも課題がある。</li> </ul>	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、「なりたい自分」を目指し、自分の人生を選択し、自分らしく表現することができる。
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもがわくわく感をもって課題にチャレンジし、自分らしく表現する「授業づくり」</li> <li>「あいさつ」の大切さを実感し、家族や友達、教師や地域に向けて実践する力の育成</li> <li>主体的な学びに係る「ふるさと学習」の意義や9年間の系統の整理と指導改善</li> <li>「家庭学習」における子ども主体の学びの推進のための発達段階に応じた取組の明確化と実践</li> <li>「体力向上」に向けた子ども主体の取組の推進</li> </ul>

## III 自校

ミッション
<b>「地域の宝」となる子どもを育成する。</b> ○児童の学びの場を充実させ、児童に学力をつける。 ○児童に当たり前のことが当たり前でできる自立の力をつける。 ○地域と進んで関わり、地域から学び、地域のために役立ちたいと思う気持ちを育てる。
学校教育目標
自ら学び、人間性豊かで、たくましく生きる子どもの育成
現状
<児童生徒> ○素直でまじめな生活態度で、決められたことは守ろうとする児童が多い。あいさつや掃除を高学年中心によくできる。「御野しぐさ」として全校でよい行いをしようとする意欲がある。自分の考えを持つことはできるが、全体へ向けて説明したり表現したりする力には課題がある。 ○全国学力・学習状況調査等から基礎学力にも活用力にも課題が見える。既習の知識や技能を活用したり、自分の考えを友達の考えと関連付けたり比較したりして深めていく児童が固定化している。
<授業> ○子ども主体の学びづくりについて、社会科・図画工作科を中心に授業づくりを研究してきた。児童自らが主体となって、友達の意見を聞き、深め合うことが全教室で展開されるよう、付けたい力やその指導内容、展開等子ども主体になる授業づくりを進めていく必要がある。 ○ワークシートやICT機器などを積極的に活用し、すべての子どもが「もっと分かりたい」という授業改善を進めていく必要がある。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	<input checked="" type="checkbox"/> 意思決定力 <input checked="" type="checkbox"/> 問題解決力 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション力
めざす子ども像	<input checked="" type="checkbox"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の目標を自分で決め、その解決に向かって自分の行動を考え、判断するなど自分の行動を自分で決定することができる。</li> <li>自ら発見した課題に向けて調べたり、他教科と関連付けたりして主体的に、粘り強く解決することができる。</li> <li>学んだことを学習や生活に役立てようとするすることができる。</li> </ul> <input checked="" type="checkbox"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手意識を持って、自分の考えを分かりやすく伝えたり、他者の考えを受けとめたりすることができる。</li> <li>他者と進んで関わり、互いのよさを認め合うことができる。</li> </ul>
研究	教科等 社会科・図画工作科 主題・内容等 「子ども主体の深い学び」を実現する授業の創造 ～対話的な場面の工夫を通して～
めざす授業の姿	<b>児童がもっと分かりたいと思う授業</b> ○児童全員が授業に進んで参加し、自分で考え、判断する授業(主体的) ○分からないことを質問し合い、既習や経験をつないで解決する授業(対話的) ○教科の「見方・考え方」を働かせて理解を深める授業(深い学び)

福山市立御野小学校

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経 営目標	重 点	分 類	短期経営 目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力付 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の 達成状況	力付 評価	達成 評価	総合 評価
2	意思決 定力を 育成す る	★	見 直	知	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決的な授 業を仕組み、個 人思考と集団 思考をする場 面を設定する。</li> <li>質問することを 習慣化する。</li> <li>振り返りを習慣 化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「考えることが面 白い」という児童 の肯定的評価が 80%以上</li> <li>「自分の考えは認 められている」と 思う児童の割合を 70%以上</li> <li>「思考を深めるこ とができた」と思 う児童の割合を 70%以上</li> </ul>								
				学力を定 着させ る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で付けたい 力を明確にし た単元をつくり、評価を生か した個々への 指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学期の国語科・ 算数科・社会科・ 理科の単元評価の 平均80点以上</li> </ul>								
	問題解 決力を 育成す る	★	継 続	徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>御野しぐさ強化 週間を学期に 1回設定する。</li> <li>児童会目標と連 動させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつが「でき ている」という児 童の肯定的評価を 90%以上</li> </ul>								
コミュ ニケー ション 力を育 成する				地域から 進んで学 び、地域 のために 役立ちたいを 思う児童を増 やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して地 域と連携した 学習を行い、学 んだことを積 極的に地域に 発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「御野のまちを大 切に思う」児童の 肯定的評価の割合 を90%以上</li> </ul>								

	★見直	主体的な体力づくりにより体力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 体力を向上させる運動を児童に考えさせ、日常的な取組にする。</li> <li>• 進んで外遊びをしている児童80%以上</li> <li>• 新体力テストで県平均を上回る項目数が前年度より増加</li> </ul>																	
2	教職員の力量を向上させる	見直	授業改善を積極的に実行する教職員研修をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一年間に1人2回以上授業提案を行い、改善策を毎回整理する。</li> <li>• 日常的に互いの授業を見合い、授業について語り合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 年間10回以上の提案授業を参観し、改善策を自分の授業に取り入れた教職員の割合を80%以上</li> </ul>															
2	学校組織力を向上させる	継続	学校課題の克服や自己肯定感の生まれる取組により、児童・教職員の充実感、保護者・地域の安心感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 児童のよさを認め、温かい声かけを実行する。</li> <li>• 7時45分を意識した効率的な業務を行う。</li> <li>• 学校が取組んでいることを通信やHP等で積極的に発信し、保護者や地域からの声に適切に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「学校が楽しい」という児童の割合80%以上</li> <li>• 「仕事にやりがい・充実感がある」教職員の割合を95%以上</li> <li>• 学校通信の発行、学校HPの更新を月2回以上</li> <li>• 「保護者・地域からの学校に対する満足度」の肯定的評価を90%以上</li> </ul>															

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。